



患者図書室の構想と立ち上げ(抄録)

高橋 眞由美

I. 構想

鳥根県立中央病院(以下、当院)における患者図書室の設置計画は10年ほど前からあったが、病院移転などの事情もあり2007年10月にオープンした。

当院患者図書室のコンセプトは、患者およびその家族に良質な信頼できる医学的情報を提供するというものである。巷に医療情報はあふれているが玉石混淆の状態であるため、当院として責任をもってすすめることができる資料を提供していく場と捉えている。

II. 管理と運営

立ち上げ、運営、管理については図書委員会で審議し、現場の業務は図書室スタッフ2名が図書業務のひとつとして行っている。

当院患者図書室の理念を守るため図書委員会で患者図書室管理要項を作成し、それに基づいて日々の管理・運営を行っている。

III. 現状

当院患者図書室はコピー不可、貸し出し不可、インターネット設置せずというかなり制約があるものであり、当初利用者からのクレームなどを心配していたが現在のところそのような声はほとんど無い。

病院ボランティアも運営に積極的に関わっていただいている。日中、患者図書室に図書室スタッフは常駐していないが、ボランティアの

メンバーが蔵書の整理や利用案内などをしてくださっている。また、ボランティア主催のバザーの収益金を患者図書用に寄付され、これによって健康関連の月刊雑誌を購入して蔵書として展示している。

IV. 考察

よりよい患者図書室にしていくためには、利用者の声を聞くことが大切だと考え、開設当初より患者図書室に意見箱を置いている。すでに、寄せられた意見にもとづいて改善を施した点がある。

患者図書室の要となる蔵書については、コンセプトに合いかつ利用者が求める内容のものを置くために、選書にはひき続き労力を必要とすることになる。

今後も利用者の声を聞きながら、より利用者に喜んでもらえる患者図書室にしていきたい。

